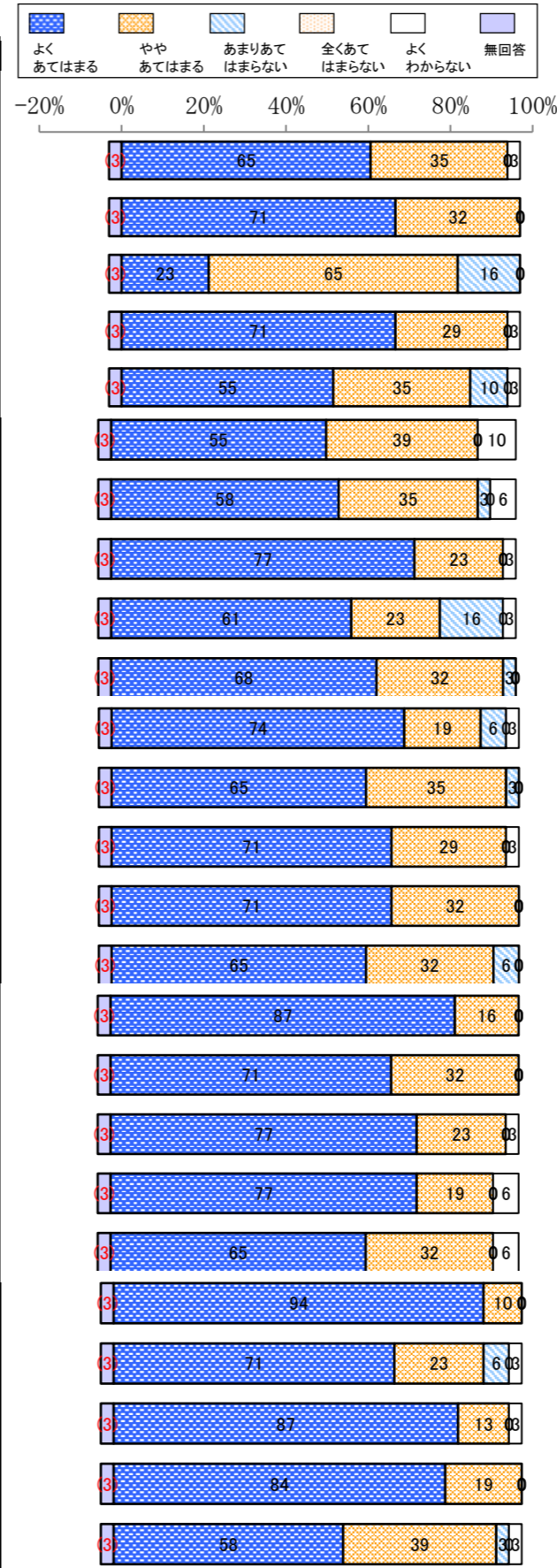


アンケートの結果			上段：児童 下段：保護者等 グラフ：教職員						
			A	B	C	D	よく分からない	無回答	
学校全体の様子	1	教育目標・方針	児童・生徒や保護者等と共有できるように学校の教育目標を示し、方針を説明している。	36	47	13	1	2	1
	2	児童・生徒の様子	児童・生徒は、明るく素直で、生き生きとした楽しい学校生活を送っている。	66	25	5	2	1	1
	3	基本的な生活習慣	児童・生徒の服装や通学態度、挨拶など基本的な生活習慣がしっかりしている。	43	47	8	1	1	1
	4	児童・生徒理解	児童・生徒の良さや努力しているところを見つけ、励まし、理解しながら一人一人の能力を伸ばすように努めている。	46	35	13	3	3	1
	5	健康・安全・安心	児童・生徒の健康や安全（確保・対策）に配慮するとともに、主体的に行動できる防災教育を充実している。	62	25	10	2	1	1
学力向上の取組	6	分かる授業	楽しく分かりやすい授業が実践されている。	54	32	9	2	2	1
	7	個に応じた指導	習熟度別学習等、児童・生徒一人一人の理解の程度に応じた学習指導が行われている。	58	29	10	1	2	1
	8	学習習慣	放課後の補充指導等を行うとともに、家庭での学習課題を提示する等、学習習慣の定着を図る工夫をしている。	66	23	8	1	1	1
	9	情報教育	タブレットPCなど、ICT機器を活用した教育を推進しながら、情報活用能力の育成に向けて取り組んでいる。	68	21	6	3	1	1
	10	学校図書館の活用	読書と学習に役立つ学校図書館として活用されている。	73	16	5	2	3	1
社会性・人間性の育成	11	人権教育	自他を大切にし、偏見や差別を許さない豊かな人権感覚を育てる教育を行っている。	62	29	6	0	2	1
	12	道徳教育	生命を大切にす気持ちや他人を思いやる心、善悪の判断や規範意識を育てる等、道徳性をはぐくむ教育を行っている。	40	41	14	2	3	1
	13	教育相談	教育相談を充実し、いじめや不登校を防止する等児童・生徒一人一人の居場所がある学校づくりに努めている。	42	29	16	7	6	1
	14	人間関係づくり	学校行事等の教育活動を工夫し、体験活動を充実させながら望ましい人間関係が築けるよう取り組んでいる。	73	20	4	1	1	1
	15	自治的な活動	学級活動や児童会・生徒会活動等で、児童・生徒が自発的・自治的に活動できるように工夫しながら指導している。	62	29	6	1	1	1
保護者・地域との連携	16	情報発信	学校便りや学年便り、学校ホームページ等で、保護者や地域の方に、学校の教育活動の様子を分かりやすく知らせている。	43	25	9	3	19	1
	17	相談への対応	児童・生徒や保護者からの連絡や相談を丁寧に受け止め、適切な対応をしている。	48	29	14	2	6	1
	18	学校への参加	学校公開週間や土曜授業日、学校行事等では、保護者や地域の方が参加しやすいように工夫している。	58	27	9	3	3	1
	19	地域との連携	地域の行事などに協力的で、連携を図っている。	49	25	16	6	3	1
	20	意見の反映	保護者や地域から寄せられた意見や要望を受け止め、学校運営と教育活動の改善に努めている。	45	32	8	1	12	1
各学校の特色ある教育	21	学校行事の取り組み	児童は日頃の学習の成果や金管バンドの取り組みを運動会、オータムコンサート、音楽会などの学校行事に生かしている。	74	17	6	0	2	1
	22	基礎・基本の定着	マスタータイム（計算・漢字等の習熟の時間）やあらかわ寺子屋を設け、一人一人が基礎・基本の力を身に付けている。	46	31	13	5	3	1
	23	自主的な休み時間の活用	月に2回のスーパー昼休みを設け、校庭で遊んで体力の向上を図ったり学校図書館を活用して読書を楽しんだりしている。	73	17	5	3	1	1
	24	異学年交流の推進	なかよし班による縦割り活動、交流給食、登校班による登校等とおして、異学年が交流し、仲良く学校生活を送っている。	56	31	7	2	3	1
	25	外部人材の活用	各教科の学習・道徳科・読書などで、外部人材を活用して、多彩な教育活動の充実を図っている。	52	27	12	2	7	1

無効票を除く(%)



学校の自己評価（考察）

○肯定群は児童保護者ともに多い。「あまりあてはまらない」について児童に分かりやすく伝える機会を設ける必要がある。

○肯定群は全体的に多いが、保護者は「ややあてはまる」が多いので、保護者へ学校の様子を伝えていく必要があると考える。

△教員・保護者と児童の間に「よくあてはまる」についての隔りがある。どうなるか「よくあてはまる」なのか伝え、指導する必要がある。

△8割以上の児童が肯定群である一方、15%の児童が否定群である。自己肯定感を得られるような指導の工夫を充実させていく。

○4月に実施している引き取り訓練や、月1回の避難訓練などの取り組みが認められていると思われる。

○児童の約85%が肯定群である。今後もよりわかりやすく、学習の様子を保護者に伝えていきたい。

○児童の約86%が肯定群である。算数少人数指導の実施や授業での指導が児童の分かりやすさの実感につながっているものと思われる。

○あらかわ寺子屋の実施や家庭学習の課題等で、学習機会を保障している。その一方、一部児童は家庭学習に課題を持っている。

○電子黒板が全学級で使われており、分かりやすい授業を支えている。タブレットPCは特に高学年が様々な教科で活用している。

○読書のためだけでなく、総合的な学習や社会科などでも調べ学習に活用している。児童の利用回数も増えてきている。

△児童の約9割が肯定群である一方、児童の5.5%、保護者の約8%が否定群である。いじめ対策を今以上に組織的に行っていく。

△児童の16%が否定群である。読んで考えさせるだけでなく、経験に基づいて考えさせたり、今以上に話し合わせたりする必要がある。

△児童の約23%が否定群である。担任教諭はもちろん、養護教諭やスクールカウンセラーなど、幅広く相談できる体制を伝えていく。

○児童も保護者もおおむねよい人間関係が作れており、仲良く学校生活を送っていることがわかる。

○高学年を中心に自治的な活動をし、下学年に引き継いでいっている。今後ますます充実させていきたい。

○保護者はよく学校からの配布物を見ているが、伝える内容については児童の活動をわかりやすく伝えていきたい。

△保護者の8%が否定群である。相談の内容に応じて、担任・学年・学校全体で取り組む必要がある。

○おおむね肯定的だが、児童によっては、土曜授業や行事などに保護者が参加しないことを残念に思うこともあるようである。

△約22%の児童が地域の行事に参加していないと感じていることが明らかになった。学校からも参加の呼びかけ等を行ってほしい。

△保護者の約10%が否定群であるとともに、分からないが15.5%であった。評価アンケートの結果の掲載等、より伝えていく必要がある。

○児童のほとんどが学校行事に主体的に参加している。活躍の様子を保護者にも期待され、励まされていることがわかった。

○ほとんどの児童がマスタータイムを中心に基礎基本の徹底を図っている。課題のある児童は寺子屋などでも学習するように促す。

○90%の児童が校庭で遊んだり、学校図書館で本を読んだりして、自分で考えながら休み時間を楽しく過ごすことができていた。

○低学年児童は異学年交流を楽しみにしている。高学年の進行等への不安は事前の集会をし、班長にのみ負担がかからないようにする。

△児童、保護者ともに肯定群が約78%にとどまった。教育活動における外部人材がどのように位置付けられているかを周知していく必要がある。